

新型コロナウイルス 感染症対策への取り組み

高野 早苗 新型コロナウイルス感染症対策特別委員会委員長

①感染者状況(R3. 11. 15現在)

黒部市	<u>140人</u>
富山県	<u>4,867人</u>
全国	<u>172万5,855人</u>

②ワクチン接種状況について

R3. 11. 14現在

- ・黒部市全体 65,386回
- ・2回目接種率 80.1%
(全国 75.1%)



②ワクチン接種状況について

<1回目・2回目接種>

- ・集団接種 11月6日(土)で終了
- ・個別接種 11月下旬で一旦終了
- ・11月以降の新たな接種希望者・・・

市内医療機関で接種

②ワクチン接種状況について

5月21日、市長に対し、「新型コロナウイルスワクチン接種に関する要望書」を提出

- ・体制整備・予約方法等の情報提供について
- ・余剰ワクチンの有効活用について
- ・重度障がい者等への優先接種等について など

③令和3年度黒部市の主な支援

(1)子どもインフルエンザ予防接種費

助成事業 1,036万円

小中学生の予防接種1回につき3,000円

(小学生2回、中学生1回まで)

③令和3年度黒部市の主な支援

(2) 健やか赤ちゃん特別給付金 1,302万円

R3. 4. 2からR4. 4. 1までに
生まれた新生児1人あたり5万
円を給付



③令和3年度黒部市の主な支援

(3) 子育て世帯生活支援特別給付金

ひとり親世帯 1,647万円

ふたり親世帯 3,455万円

低所得者親子育て世帯児童一人あたりに
一律5万円を給付。

③令和3年度黒部市の主な支援

(4)がんばる黒部応援商品券

プレミアム商品券

1億3,767万円

※10月31日終了



③令和3年度黒部市の主な支援

(5)-1 飲食業等関連事業支援給付金

・飲食業等関連事業者分 200万円

県の関連給付金に一律10万円を上乗せ

③令和3年度黒部市の主な支援

(5)-2 飲食業等関連事業支援給付金

・宿泊施設関連事業者分 200万円

市内の宿泊施設と直接取引がある事業者のうち、経営に大きな影響を受けた市内事業者に一律20万円を支給

黒部市議会議員定数 について

小柳 勇人 議会改革特別委員会委員長

「議員定数」に関する中間報告

- 10月22日委員会、全会一致で取りまとめた。
- 現在パブリックコメント実施中（11月22日まで）
- 中間報告および概要版を議会HP、各公民館などで公開している

特別委員会の取組（中間報告の特徴）

経過	3つの課題	提案内容
4～8ページ	10～38ページ	39～41ページ
<ul style="list-style-type: none"> 令和2年12月17日から、全体会14回、幹事会7回を開催した。 令和3年12月を目途とした 10月22日全体会にて「中間報告」を全会一致にて承認した。 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの課題から、3つを議論していく課題として決めた。 「常任委員会のあり方」 「類似団体・近隣団体との比較」 「定数18名における議会のあり方」 各課題に対して、検討を行い、意見を取りまとめた。 	<p>議員定数は、</p> <ul style="list-style-type: none"> 18名（現状維持） 17名（1名減） 16名（2名現） <p>常任委員会は、</p> <ul style="list-style-type: none"> 現状の3委員会 2常任委員会（1人1所属） 2常任委員会＋予算決算常任委員会（1人2所属） <p>合計9通りの組み合わせを提案。</p>

黒部市議会 議会改革特別委員会 「議員定数」に関する中間報告 【概要版】

議員定数と常任委員会のあり方について協議を行い、定数は3通り、常任委員会は3通りの意見に集約された。また、組み合わせでは最大9通りとなる。

【議員定数に取り組む目的】

人口減少時代においても成長が持続する自治体を目指すとともに、市民の声を市政に反映していくことを追及していくため議員定数について取り組むこととした。

議員定数		常任委員会	
A.	18名（現状維持）	1.	現状の3常任委員会 （議員は1つの委員会に所属）
B.	17名（1名減）	2.	2常任委員会 （議員は1つの委員会に所属）
C.	16名（2名減）	3.	2常任委員会+予算決算常任委員会 （議員は2つの委員会に所属）

「予算決算常任委員会」は全議員で組織し、補正予算を含むすべての予算関連議案を審議する。

協議の過程で、議員定数や常任委員会のあり方について各議員から意見を募り、各案に対して特長と懸案事項を以下のように整理した。

黒部市議会 基本条例（第14条）	
議員定数 17名	
特長	懸案事項
<ul style="list-style-type: none"> 現在1名欠員の17名で運営していて支障がない。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民からの多様な意見を反映しにくい。 経済的な課題（報酬アップ、年金体制の保障）

議員定数 18名

特長	懸案事項
<ul style="list-style-type: none"> 現在の委員会構成（3常任委員会×6名）が最も運営しやすい。 1常任委員会の人数削減が不要。また、複数常任委員会所属の必要がない。 議員数は、多い方が住民の声を反映しやすい。 定数削減は「地方自治の弱体化」になり、住民の声が反映しにくい。また、人口の少ない地域では議員を送り出すことが、益々困難になることが予想される。 議員1人あたりの人口数については、類似団体や周辺団体と比較しても妥当と考えられる。 議員数は、多い方が地方自治や住民代表機関としての機能が高まり、首長に対する監視等が強化できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 4年後の改選時（令和8年）にも定数問題が残る。 将来的に削減を再考する必要がある。 今後の地域のあり方、小学校再編も視野に入れた検討が必要と考えられる。 若者・女性については、定数を増やして若者・女性議員が増えることではない。関心を高めることが重要となる。 仕事を持つ市民が立候補するには経済的条件（報酬、年金）が課題となる。

議員定数 16名

特長	懸案事項
<ul style="list-style-type: none"> 人口4万人とすれば、議員16名では、議員1人あたり2500人の市民を担当できる。 議員1人あたりの市民数を概ね2400人以上とすることが可能になる。（黒部市人口ビジョンの2030年推計人口に対しても16名では対応可能）。 議員1人あたりの財政規模を6億円以上とすることが可能になる。 削減により競争原理が働く。また、無投票による市議会議員選挙をさけるべき。 議会機能強化を進めながら、人口減少時代に対応することが可能となる。 人口減少&財政規模縮小により、議案件数や審査内容も減少することが想定される。 	<ul style="list-style-type: none"> 2名の削減により市民の幅広い声を代弁していく難易度があがる。 16振興会、9小学校、2中学校の人口格差を考慮していないこと。 議員を輩出できない地域がでてくる。 議員数の減少に応じて、議会選出の監査委員について課題がある。 経済的な課題（報酬アップ、年金体制の保障）。

3つの課題の整理

【常任委員会のあり方】

現在3つ（総務文教、生活環境、産業建設）の常任委員会、各委員会とも6名の委員をもって構成している。（議員は1人1委員会所属）

所属について	数について
<ul style="list-style-type: none"> 1人1常任委員会（現状）がよい。 1人複数常任委員会がよい。 1人の所属する常任委員会数は平等がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 3常任委員会（現状）がよい。 4常任委員会がよい。
その他	
<ul style="list-style-type: none"> 常任委員会の機能を強化するべきである。 	

【類似団体・近隣団体との比較 ～人口比較～】

都道府県	団体名	議員定数	人口比較				黒部市 2,284人 の議員定数
			人口	対黒部	議員1人 あたり	対黒部	
兵庫県	加西市	15	44,080	1.07	2,939	1.29	19.3
兵庫県	西脇市	16	40,412	0.98	2,526	1.11	17.7
兵庫県	加東市	16	40,348	0.98	2,522	1.10	17.7
茨城県	桜川市	18	41,440	1.01	2,302	1.01	18.1
富山県	黒部市	18	41,116	1.00	2,284	1.00	18.0
岡山県	井原市	18	39,912	0.97	2,217	0.97	17.5
滋賀県	米原市	18	38,937	0.95	2,163	0.95	17.0
大分県	白杵市	18	38,231	0.93	2,124	0.93	16.7
広島県	府中市	20	38,998	0.95	1,950	0.85	17.1
類似団体	平均値	17.4	40,386	0.98	2,336	1.02	17.7
富山県	氷見市	17	46,732	1.14	2,749	1.20	20.5
富山県	砺波市	18	48,354	1.18	2,686	1.18	21.2
富山県	魚津市	17	41,672	1.01	2,451	1.07	18.2
富山県	黒部市	18	41,116	1.00	2,284	1.00	18.0
富山県	滑川市	15	33,284	0.81	2,219	0.97	14.6
富山県	小矢部市	16	29,783	0.72	1,861	0.81	13.0
県内6市	平均値	16.8	40,157	0.98	2,375	1.04	17.6

【定数18名における議会のあり方】

現在の定数18名で構成する黒部市議会のあり方について議員間で議論を行い、特長や課題、懸案事項などを議論してきた。

特に、8月20日開催の委員会では全議員が発言するなど、各議員が自らの意見を発言し議論を深めた。詳細については、中間報告「自由討議の内容」を参照。

議員定数と各市の人口を比較した。また、人口を議員定数で割ることにより議員一人あたりの人口数を算出している。さらに、黒部市の議員一人あたり人口数2,284人を他市で採用した場合の議員定数を算出している。

- 黒部市は、議員一人あたりの人口数が2,284人であった。
- 類似団体では、兵庫県加西市の2,939人が最高値、広島県府中市の1,950人が最小値、平均値の2,336人と黒部市を比較すると黒部市が52人小さい数値となっている。
- 近隣団体では、氷見市の2,749人が最高値、小矢部市の1,861人が最小値、平均値2,375人と黒部市を比較すると黒部市が91人小さい数値となっている。
- 類似団体9市との比較では、上位から5番目。近隣団体6市との比較では、上位から4番目となった。
- 類似団体の平均値2,336人を基に黒部市の議員定数を算出すると17.6人。近隣団体の平均値2,375人では、黒部市の議員定数は17.3人となった。

3つの課題の整理

【類似団体・近隣団体との比較 ～財政規模比較～】

都道府県	団体名	議員定数	基準財政需要額比較				黒部市 542,424千円の 議員定数
			基準財政 需要額	対黒部	議員1人 あたり	対黒部	
兵庫県	加西市	15	9,193,114	0.94	612,874	1.13	16.9
兵庫県	西脇市	16	9,786,299	1.00	611,644	1.13	18.0
岡山県	井原市	18	10,614,035	1.09	589,669	1.09	19.6
兵庫県	加東市	16	9,238,398	0.95	577,400	1.06	17.0
滋賀県	米原市	18	10,162,225	1.04	564,568	1.04	18.7
大分県	臼杵市	18	10,013,884	1.03	556,327	1.03	18.5
富山県	黒部市	18	9,763,629	1.00	542,424	1.00	18.0
茨城県	桜川市	18	9,444,390	0.97	524,688	0.97	17.4
広島県	府中市	20	9,830,789	1.01	491,539	0.91	18.1
類似団体	平均値	17.4	9,782,974	1.00	563,459	1.05	18.0
富山県	氷見市	17	10,402,687	1.07	611,923	1.13	19.2
富山県	砺波市	18	10,985,970	1.13	610,332	1.13	20.3
富山県	黒部市	18	9,763,629	1.00	542,424	1.00	18.0
富山県	魚津市	17	8,210,813	0.84	482,989	0.89	15.1
富山県	小矢部市	16	6,859,780	0.70	428,736	0.79	12.6
富山県	滑川市	15	6,007,351	0.62	400,490	0.74	11.1
県内6市	平均値	16.8	8,705,038	0.89	512,816	0.95	16.0

基準財政需要額とは、地方交付税の交付額を算出するときに使用される指数、国が定める自治体運営に必要な経費の需要額と考えられる。

【市民からの意見聴取】

議会基本条例に基づき、市民の皆様からご意見を伺うことで準備を進めている。

- 令和3年11月22日まで市民パブリックコメントを実施する。
(詳細は市議会ホームページを参照)
- 令和3年11月17日の午後7時より黒部市役所にて議会報告会を開催し、意見交換を予定している。

議員定数と各市の財政規模を比較した。また、財政規模を議員定数で割ることにより議員一人あたりの財政規模を算出している。さらに、黒部市の議員一人あたり財政規模5億4,242万4千円を他市で採用した場合の議員定数を算出している。

- 黒部市は、議員一人あたりの財政規模が5億4,242万4千円であった。
- 類似団体では、兵庫県加西市の6億1,287万4千円が最高値、広島県府中市の4億9,153万9千円が最小値、平均値の5億6,345万9千円と黒部市を比較すると黒部市が2,103万5千円小さい数値となっている。
- 近隣団体では、氷見市の6億1,192万3千円が最高値、滑川市の4億49万円が最小値、平均値5億1,281万6千円と黒部市を比較すると黒部市が2,960万8千円高い数値となっている。
- 類似団体9市との比較では、上位から7番目。近隣団体6市との比較では、上位から3番目となった。
- 黒部市の財政規模を、類似団体の平均値5億6,345万9千円を基に黒部市の議員定数を算出すると17.3人。近隣団体の平均値5億1,281万6千円では、黒部市の議員定数は19.0人となった。

【委員会開催の経過】

令和2年12月17日から令和3年10月22日まで、委員会（全体会）を14回、幹事会を7回 合計21回開催した。

- 全員の申し合わせにより、令和3年12月議会を目的に議論をしていくことで合意した。
- 中間報告を基にして、市民に対してパブリックコメントを実施することを合意した。
- 市内4団体（自治振興会長連絡協議会、黒部商工会議所、女性団体連絡協議会、（公社）黒部青年会議所）と意見交換を行う予定で準備を進めている。

中間報告の位置づけ

(中間報告にあたり 抜粋)

この報告書は、本委員会で議論してきたことを振り返る内容となっています。この内容を基に議会及び議員一人ひとりが、市民の皆様方と向き合い、市議会の機能強化に対して不断の努力を行い、引き続き付託に応えていく一助になることを期待しています。